令和７年度　学校関係者評価　　No.1

学校名　永利小学校　　校長名　小丸　公陸

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価			学校関係者評価委員による評価(集約)		
			評定(数値平均)	対策・改善点		評定(数値平均)		主な意見
1	(1)	校長の学校経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	段階 人数 平均 A 2 B 16 C 4 D 0	2.9	・職員一人一人が経営方針を踏まえた学級経営に努め、子供の姿で見せる。今後も学校だより等で積極的に発信する。	段階 人数 平均 A 2 B 4 C 0 D 0	3.3	
2	(1)	望ましい子供の姿（知・徳・体）に向かって数値的目標を設定し努力している。	段階 人数 平均 A 2 B 12 C 8 D 0	2.7	・短期、長期の数値目標を設定し、スモールステップで達成できるようにする。	段階 人数 平均 A 2 B 4 C 0 D 0	3.3	
3	(2)	子供たちは、楽しそうに生き生きと学校生活を送っている。	段階 人数 平均 A 5 B 16 C 1 D 0	3.2	・授業における対話活動を充実させる。	段階 人数 平均 A 3 B 3 C 0 D 0	3.5	
4	(2)	いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	段階 人数 平均 A 6 B 13 C 3 D	3.1	・心の教育推進委員会等で全体共有し課題解決に向けて、全校体制で取り組んでいる。	段階 人数 平均 A 1 B 5 C 0 D 0	3.2	不登校について、地道に丁寧に粘り強く継続的に尽力されてください。
5	(3)	子供たちの安全（登下校時、自然災害時）について細心の注意を払っている。	段階 人数 平均 A 3 B 18 C 0 D 0	3.1	・下校時の見守りを保護者や地域と連携して行う必要がある。	段階 人数 平均 A 1 B 5 C 1 D 0	3.0	
6	(4)	教職員は、子供や保護者、地域との望ましい関係を築いている。	段階 人数 平均 A 8 B 14 C 0 D 0	3.4	・児童へ積極的に声を掛け、関係性を築く。担任と保護者の信頼関係が大事となるため連携を密にとる。	段階 人数 平均 A 2 B 3 C 1 D 0	3.2	
7	(5)	学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	段階 人数 平均 A 2 B 16 C 4 D 0	2.9	・高学年が自主的に清掃ボランティアをする姿が見られた。全校に広めたい。	段階 人数 平均 A 1 B 4 C 1 D 0	3.0	
8	(5)	学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検等がなされている。	段階 人数 平均 A 5 B 17 C 0 D 0	3.2	・定期・臨時に点検は行ってきた。仮説校舎設置、特別教室の空調設備工事が進んでいる。	段階 人数 平均 A 0 B 6 C 0 D 0	3.0	学校施設等は学校、市が努力されているが、予算をきちんとつけてスピーディーに行うこと。
9	(7)	子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	段階 人数 平均 A 2 B 17 C 3 D 0	3.0	・個別の実態は通知表で知らせ、全体の平均はたより等で成果と課題を公表している。学力に課題があるので、研修で取り組んでいる。	段階 人数 平均 A 1 B 5 C 0 D 0	3.2	
10	(7)	保護者や地域は学校の教育活動に対して協力・支援を行っている。	段階 人数 平均 A 2 B 17 C 3 D 0	3.0	・役員の方々は大変協力的である。全保護者の協力・支援を得られる体制づくりが課題である。	段階 人数 平均 A 5 B 1 C 0 D 0	3.8	

様式６　　令和７年度学校関係者評価　　No. ２

学　校　名
永利小学校

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価(集約)				学校関係者評価委員による評価(集約)			
			評定(数値平均)			対策・改善点	評定(数値平均)			主な意見
11	(6)	小中一貫教育は、積極的に実践され、子供たちの姿として現れている。	段階	人数	平均	・中１ギャップの解消として乗り入れ授業や６・８交流を行っている。	段階	人数	平均	
			A	1	2.7		A	1	2.8	
			B	12			B	2		
			C	8			C	2		
			D	0			D	0		
12	(6)	薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えてくれている。	段階	人数	平均	・３年生の「昔遊び」で高齢者とのふれあい、６年生の「SNSモラル教室」を実施した。	段階	人数	平均	
			A	2	3.0		A	1	3.0	
			B	9			B	3		
			C	2			C	1		
			D	0			D	0		
13	(6)	英語教育の推進について、小・中学校の特質を活かして充実が図られている。	段階	人数	平均	・ALTやESTの派遣でネイティブな英語に触れている。今後主体的に学ぶ手立てが必要である。	段階	人数	平均	
			A	1	2.7		A	2	3.2	
			B	10			B	3		
			C	7			C	1		
			D				D	0		
14	(2)	子供たちは、学校や地域で進んであいさつをしている。	段階	人数	平均	・進んで挨拶は課題がある。家庭や地域と連携する必要がある。	段階	人数	平均	
			A	0	2.2		A	1	3	
			B	5			B	1		
			C	17			C	4		
			D	0			D	0		
15	(8)	服務規律の厳正確保と校務の整理について、全職員の理解と実践がなされている。	段階	人数	平均	・自分たち事として考えるようにし「不祥事０」をめざす。先輩教師が後輩教師を育てる雰囲気づくりに努める。	段階	人数	平均	
			A	9	3.4		A	0	3.0	
			B	12			B	5		
			C	1			C	0		
			D	0			D	0		
16	(8)		段階	人数	平均		段階	人数	平均	
			A		#DIV/0!		A		#DIV/0!	
			B				B			
			C				C			
			D				D			

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=１点として、学校教職員の評価を平均（小数第１位まで）

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=１点として、学校関係者評価委員の評価を平均（小数第１位まで）

＜学校関係者評価結果及び委員の意見等をふまえた次年度の改善点と対応策＞

・学校経営や学級の様子が保護者や地域に伝わるよう、広報活動を充実していく。
・子供の絆づくり、居場所づくりの基盤として、学級経営の充実に取り組んでいる
・学力調査等での目標達成には至らず自己評価が低くなっている。学習意欲が向上していることから、今後の数値的目標達成に向けて、取組を工夫していく。
・学校の環境衛生については、効率的に清掃が行われるよう子供たちへの指導を徹底する。高学年のボランティア時間の清掃活動の充実を図る。
・子供たちのあいさつについては、家庭と連携し、自分から挨拶できるように指導に努める。学校へ来た人はお客様という意識で挨拶できるようにする。
・小中一貫教育については，子供たちの姿に見えてこない分，職員の自己評価も低くなっていると思われる。学力向上を中心に共通実践を積み上げ、今後も相互授業参観や小小交流，６・８交流を通して，教師間のつながりをより強めるとともに，児童の中学校生活への不安を軽減させる取組に力を入れたい。